

中部支社

NAGOYA

〒460-0013
名古屋市中区上前津1丁目4番12号
上前津グリーンビル
TEL (052) 381-3374 FAX (052) 381-3372

中日本ネットワーク

東海・信越・北陸

保護フィルムを安定供給



フィルム加工の様子

加工時や腐食性、軽量化など、さまざまなニーズに応えるステンレスやアルミは、複雑な成形加工や表面仕上げを経て輸送され、キツチのシンクや窓などの身近な所でも活用されている。その過程で、金属保護フィルムが加工販売を手掛ける

城山（本社）名古屋市中東区、加藤（本社）は、表面の傷や汚れの防止に不可欠な保護フィルムを安定供給に大きく貢献。同社の物流加工拠点、フィルム加工センター（FKC、名古屋守山区）を取

同社は1983年に加藤充会長が金属保護フィルムを専門商社として創業。ステンレス用、アルミ用、カラー鋼板用、レター加工用、精密板金加工用など幅広い保護フィルムを取り扱

城山・フィルム加工センター

フィルム加工の様子

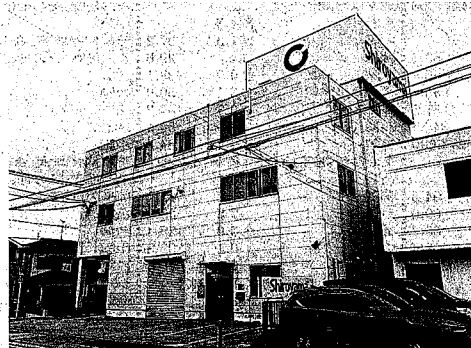
FKCは約567平方メートル敷地に、延べ床面積1207平方メートル、鉄骨造3階建て。フィルム加工用、精密板金加工用など幅広い保護フィルムを取り扱

FKCは約567平方メートル敷地に、延べ床面積1207平方メートル、鉄骨造3階建て。フィルム加工用、精密板金加工用など幅広い保護フィルムを取り扱



尺・長尺の多様な製品を任せる。加工設備は3階に大型スリッター、1階に大型スリッター、2階に小型丸刃切断機2台とリワインド機1台、加温庫1台、1階にリ

難度の高いオーダーに対応



フィルム加工センター外観

切断を行っている。切で品質を高めている。断する際に溶着や毛羽立ちが生じることが、仕上り工程では、大型スリッター切断機が対応可能な最小幅100mmに対し、15mmの除去。旋盤加工は、2台体制で、月間70万枚程度のフィルム

FKCの原点となる大型スリッター切断機は最大長さ約3000mm、最大幅1750mmの長尺・広幅加工に対応。2台体制で、月間70万枚程度のフィルム

FKCの原点となる大型スリッター切断機は最大長さ約3000mm、最大幅1750mmの長尺・広幅加工に対応。2台体制で、月間70万枚程度のフィルム

ターレット式により切断と段取りの同時進行が可能で、従来機に比べ生産性が約2倍となっている。

また、切断の難易度が高いとされるのがフィルム巻き替えを行うリワインド加工。鋼板コイルなど被覆体の巻き替え加工で、シワや異物、気泡の混入を防ぐ必要がある。フィルムメーカー以外で行うには難度が高

出荷が可能となるなど、ユーザーの作業負担や残材の削減を実現している。

21年には、切断と巻き替えを同時に行うリワインドスリッター機を導入。最大長さ約3000mm、幅3513mmまでの原反を切断するとともに上下のロールで巻き替えが可能で、1分当たり最大1000枚加工できる。押出製品や伸銅などの狭幅需要に対応するなど、加工難度の高いオーダーへの対応力をさらに強化すること。既存ユーザーへのサービス強化、受注窓口の拡大を両立（同）した。

そのほか、環境温度による素材特性の変化を防ぐため加温庫を設置するなど、加工時の品質向上を追求。専用機での廃棄ロス低減をのエアコンで室内を40度に保ち、3時間以上

「小学校に近いこともあり、社員の発案によって始まった（同）と、工場外の安全確保にも貢献している。

同社では今後も、流通革新を掲げ、品質や安全、加工効率を追求するとともに、地球環境への取り組みも加速させる。流通の立場でできることを実行していきたい（同）と、再利用の難しい特殊フィルムの残材の用途を検討するなど、市場全体の廃棄ロス低減を目標とする。

（菊川 照彦）